

5. 15沖縄平和行進

5月12～14日、「5.15沖縄平和行進」が行われ、全国から4,500人（高教組2人）が参加しました。5月15日は、1972年に沖縄の施政権が日本に返還された日です。72年前の沖縄戦では10万人もの沖縄県民が亡くなりました。沖縄の犠牲は、基地の増強、爆撃機の騒音、米軍関係者による事件など、今も続いています。もう基地はいらない。その思いをかみしめながら沖縄の地を行進しました。

<参加者からの報告>

平和行進当日は、沖縄戦最後の激戦地となった南部の平和記念公園を雨の中歩き始めました。次第に雨は強くなり、大雨で雷を伴いましたが、午前中で南部の9.6kmを歩きました。出発する際、沖縄戦当時はこの場所では住民が雨の中、避難した話を聞きました。

「平和」について考え方やとらえ方は、他人事ではなく自分たちで作っていくものであるということや、維持し、よりよくするためには、沖縄県の人のみではなく、自分の考えをもたなければならないということを感じました。沖縄戦で戦場となった場所を訪れ、自分の足で歩き、現地の声を聞き、知見を広めることができました。

(大船渡東 佐藤志保子)

5月15日のNHK番組〈朝イチ〉内で、沖縄でとったアンケートが紹介されました。「本土の人は沖縄の人を理解していると思うか？理解している17%、理解していない70%」というものです。平和行進に参加して、この沖縄県民の感覚は大げさではないと感じました。3日間、沖縄のほんの一部に触れたに過ぎないけれど、信じられないほど暮らしに密着した基地の存在感や危険はテレビの言葉では実感できていなかったし、返還された軍用地が汚染されていても米軍に原状回復義務がないことも知りませんでした。現地に身を置きひたすら考える時間を、これからも多くの仲間たちに経験してほしいとおもいます。

(本部 渡辺詩乃)



日教組の参加者と



雨の中の行進